

週報 みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行
JF 三重漁連指導部
TEL:059-228-1205
FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

三重県農林漁業就業・就職フェア 2014 -2月15日 三重県総合文化センターで-

2月15日(土)、津市の県総合文化センターで「三重県農林漁業就業・就職フェア2014」が開催された。

この就職フェアは、県農林水産支援センターが主催するもので、就職希望者と事業者・団体等を繋ぐ目的で2001年から年2回開かれている。

今年度は、20事業者、12団体がブースを設けた。

当日は、大雪の影響もあるなかで、70名を超える来場者が訪れた。参加者は、担当者等と直接話す機会が設けられたことから、さまざまな角度からの質問が飛び交っていた。

↓ 県農林水産支援センター・中西理事長

による開会挨拶



↓ 担当者と話す就職希望者



海女文化シンポジウムが開催 されます。(3月1日・2日)

海女文化シンポジウム実行委員会主催による、海女の生き方に脚光をあて、海女文化の素晴らしさや未来について考える標記シンポジウムが、3月1日(土)と2日(日)、三重県立美術館(講堂)にて開催される予定。



日本で海女が一番多いのは鳥羽・志摩地方。海女の仕事は海に潜ってアワビやサザエ、海藻など海の幸を採取するのが業であり、その歴史は古く、およそ5千年前の縄文時代には海女のいた痕跡がみられる。

長い歴史のなかで育まれてきたその漁法には、自然と闘い自然と共生する様々な知恵があふれており、三重県の無形文化財にも指定される見込み。

さらに、海女の文化的な価値を保全・継承しようと、ユネスコ無形文化遺産に登録する動きも多方面から起こりはじめており、海女の創る輝かしい文化と未来について考える機会になる。

【問い合わせ先】

海女シンポジウム実行委員会・事務局

Tel : 0599-25-1101

E-mail : kikaku@city.toba.mie.jp**三重テレビ番組にて“伊勢まぐろ”が紹介されました。**

2月18日(火)、三重テレビ番組の“旬感☆みえ～MY CITY MY TOWN”にて「伊勢まぐろ」が紹介された。この番組は、観光や歴史、イベント、人、まちづくりなど、多方面から地域の情報発信を行う番組。

今回、南伊勢町が特集され、南伊勢町商工会の田中会長と観光協会から地元特産品や体験漁業の活動などが紹介された。

「伊勢まぐろ」を紹介する場面では、有竹社長（ブルーフィン三重）が生出演し、迫力ある給餌シーンや神前浦の恵まれた飼育環境などをスタジオで説明し、併せて南伊勢水産業の特色もアピールした。

↓南伊勢町特集の出演者陣

**鳥羽地区災害防止対策委員会
-2月13日 鳥羽港湾合同庁舎で-**

2月13日(木)に鳥羽港湾合同庁舎において、鳥羽地区災害防止対策委員会(永富 洋一 委員長)の会議・講習会が開催された。

昨年4月から12月末までの間、鳥羽海上保安部管内における事故のうち排出油等災害が6件発生しており、いずれも大規模災害に発展することなく収束したが、一方では通報の遅れや不適切な防除措置などにより被害を拡大させる危険性が潜んでいることも否定できない。

そのようなリスクの軽減を目指し、かつ、国や地方公共団体、当事者、防除協力者等がそれぞれの立場で実施する活動について、連携を図り、迅速かつ的確な対策活動を実施するための対策について協議がなされた。

↓防除措置の事例を聞く出席者



本文の無断転載・転用等は固くお断りします。